

令和5年度第2回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日時：令和6年2月20日（火）

午前10時～正午

会場：三木市役所 4階

特別会議室

第2期三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（以下、「第2期創生計画」という。）について、令和5年度第2回三木市創生計画策定検証委員会（以下、「創生委員会」という。）を開催し、委員から意見をいただいた。創生委員会における主な内容は、次のとおり。

説明事項

- ・第2期三木市創生計画 ～KPI集～
- ・令和5年度地方創生に係る新たな取組

概要

KPI検証資料を基に、令和4年度の各KPIの実績と、実績に係る検証及び今後の方針について報告し、委員に意見を求めた。

主な意見

- ・人口推計については、全国的にも5年前より推計が上振れしている。これは、平均寿命が少し延びたことに加え、外国人が増加していることが大きな要因となっている。全国の外国人割合は、2020年時点で約2%であったが、2070年時点では、約10%になることが想定されている。三木市においても現在2,000人を超える外国人が住んでおり、10年前から約2倍となっている。今後、人口問題においてポイントになるのが外国人であり、現在も働き手の不足等の課題に対し、日本の地方都市では外国人の奪い合いになっている。三木市においては、すでに多文化共生推進プランをまとめているが、このように今後は外国人との共生が重要であり、外国人にとっても住みやすいまちということが非常に大きなポイントになると考えている。
- ・スマートシティにおいて、地域社会DXにフォーカスされることが多いが、現在多くの自治体が進めていけないのは自治体行政DXであり、各自治体においてバックヤードの改革に苦戦している。地域社会DXと自治体行政DXを並行して進める必要がある。時間はかかるが一つずつ市役所全体でDX

を進めていき、兵庫県もそれをサポートしながら実証から実装へ共にチャレンジしたいと考えている。

- ・職員の働き方改革につなげるため、テレワークを推進するべきであると考えている。そして単に自宅で業務をするだけでなく、それらを効率化することで時間を作り、職員がまちに出て市民や事業者とコミュニケーションをとり、生の声を聞く機会を増やすことが重要である。市役所は窓口対応もあるため、難しい部分もあると思うが、可能な限りチャレンジしてほしいと考えている。
- ・創生計画のKPI集には、取組ごとに関連するSDGsの17の目標について触れられているが、SDGsには欠けている部分があると考えている。それは、文化・芸術である。これは、人間が生きる上で不可欠なものである。これを数値化することはできないため、KPI自体に落とし込むことは難しいと思うが、そういった視点も重要であり、次期計画に取り入れることも検討する必要があると考えている。
- ・ポストSDGsとして、D&IやWell-beingという視点などが挙げられている。現在社内においてもこれらを推進しようと取り組んでいるが、非常に難しく、社員にもまだまだ届いていない状況である。これらを届けていくためには、やはり今の世代の人たちの意見を聞いて、それらを反映させていくという地道な活動を進めていかないといけないと考えている。そういった意味でも若者との対話は重要であり、KPI-56の「三木若者ミーティング実施後のアンケートで、将来本市に住み続けたいと思う人の割合」において、住み続けたいとおもわないと回答した理由を分析し、対応していくことも大事であると感じている。
 - ・どこの自治体も同様であるが、現在課題が山積みの状況である。そういった中で、進めていて難しいと感じる事業やKPI等は、早めに軌道修正し、やめるという判断をすることも重要である。5年というスパンは長いので、短いスパンで判断できるようにしてほしい。
 - ・産業支援において、起業支援や業績等が厳しい事業者を補助することももちろん大事であるが、勢いのある事業者を応援する仕組みの構築も重要であると考えている。他の地域においても勢いのある事業者を応援することで地元の雇用の活性に大変つながっているのので、そのような視点も取り入れてほしい。
 - ・インバウンドに関しては、今後非常に期待できると考えている。車で1時間圏内で行ける地域と連携することで、地域資源をつなぎながら魅力あるツアーを造成してほしい。
 - ・計画のKPI項目において、もっと住民を巻き込んだ内容にしていくべきである。行政だけではできないことも必ずあるので、住民とも連携し、各役割を明確にして共に進めていきたい。

・地域の資源をもっとブラッシュアップしていく必要がある。例えば、市内の公民館では、毎日スケジュールが埋まっており、終日たくさんの方が訪れている。この人たちがいる意味、一人のプレイヤーであり、健康福祉分野等にも関わってくる。そこで、公民館にこういった機能が備わっていれば、さらに横のつながりができるかなど、着地を明確にしたプランニングをしてほしい。

・フードドライブの制度については、市民の皆さんにも浸透してきており、多くの余剰食材等を提供していただけるようになった。そこで次の課題となっているのは、集まった食材が各団体に届いてから、それぞれの団体同士でシェアする仕組みや、循環させる仕組みがないため、そこでさらに余剰食材となっているケースがある。それらを解決するためのインフラを整備することが必要であると実感している。他地域では民間事業者が市の社会福祉協議会と連携協定を締結して、インフラとしての役割を担っているケースもある。そのようなモデルも参考に課題を解決していく必要があると感じている。

・健康分野において、やはり予防ということが一番のポイントであり、予防することで経済の活性化や医療費の問題等に寄与していくと考えている。現在、民間事業者が健康経営に注力し、健康予防による経済効果・企業収益への効果を意識している事業者も多くなってきている。こういった民間事業者と連携し、三木市の健康予防に関する取組を推進してほしい。

・来年には、山田錦の郷が道の駅になる。これを機にゴルフ場とも連携して、ゴルフに訪れた方に周遊してもらい、まちを活性化させていきたい。

・高齢化率については、兵庫県が29.3%であるのに対して、三木市が35.7%と高い状況である。そのような中で、今後、後継者不足や運転手等の不足が懸念されている。こういった状況も踏まえて、新たなモビリティの確保について考えていかないといけない。具体的には、自動運転である。すでに運転手なしの遠隔操作で自動運転を実装している自治体も出てきている。将来を見据えた交通施策を進めてほしい。

・三木市では、放課後等デイサービスが令和6年度にもう一度立ち上がるということで、ここを今後どのように運用されていくのかということはとても重要なことであると考えている。現在は、子育ての不安等も非常に高まってきているので、三木市に住んでいたら、どのような場面でもきちんとサポートしてもらえんと思ってもらえる体制を作っていくことが大事だと思う。

・他地域の公立小学校で作文調査を実施した結果、10年前の調査と比較して、子どもたちが自分の考えを作文することが非常に苦手になっていることが分かった。これは、全国的に起きている可能性もあり、要因としては、コロナ禍であまり人と関わらずにこれまで学んできたことが影響していると考えられる。そのため、今後は子どもたちが他の人と一緒に様々な経験をしながら、自分の

考えをしっかりと言葉にしていくような取組を意識して進めていく必要がある。

・DXについては、3つの段階がある。1つ目が住民票等のペーパーレス化を図るデジタルイゼーション、2つ目が業務全体をデジタル化するデジタルイゼーション、3つ目がデジタルを用いて組織全体を変えて新しい価値を生み出すデジタルトランスフォーメーションである。これらを実現するためには、ビジョンを作って逆算しながらプランニングするとともに、市民や企業を巻き込みながら進めていくことで住民に根ざしたものになっていく。

・三木の金物産業において、メーカーのブランド力で販売している企業だけでなく、そこに関わる協力企業や下請け企業等にも目を向けて、今後も守っていかないといけないと考えている。そういった企業は、物づくりにおいては確かなものであるが、現実問題として後継者不足等の影響から廃業という選択をせざるをえなくなっていることがある。このような企業を守ることで今後の金物産業の発展につながると考えている。

・金物まつりにおいては、地元では大きなイベントであり遠方から来られている方も多いという認識であったが、市外の方からするとまだまだ認知度が低いことがわかった。市外からの視点で三木を見て、さらに魅力あるものにしていきたい。